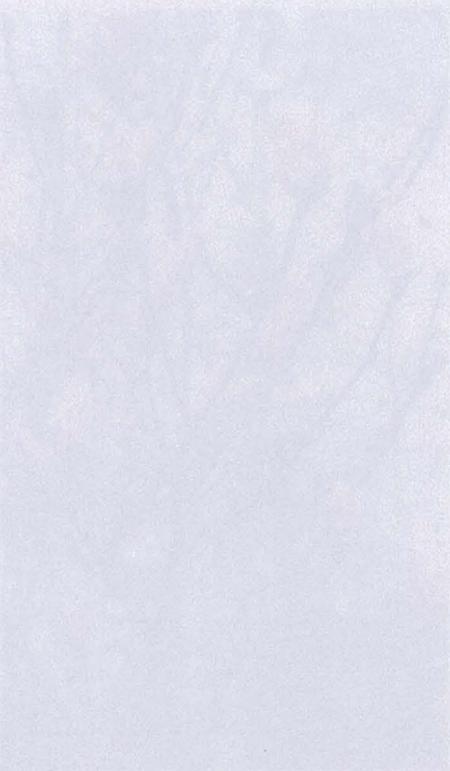
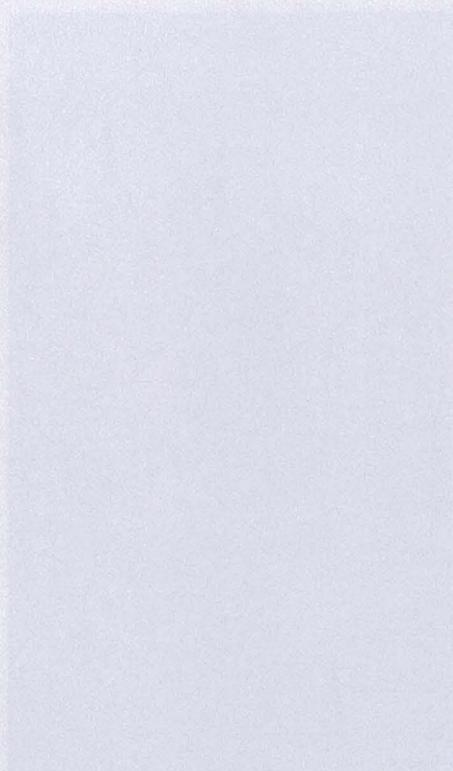
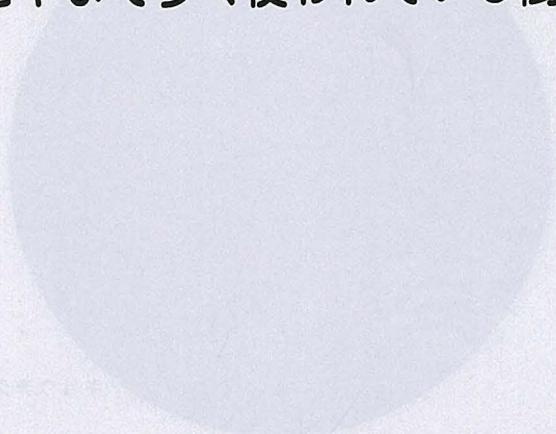
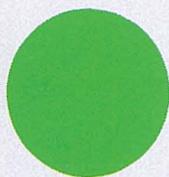


## Ⅱ とやまで多く使われている樹木





キョウチクトウ



シモクレン



ハナカイドウ



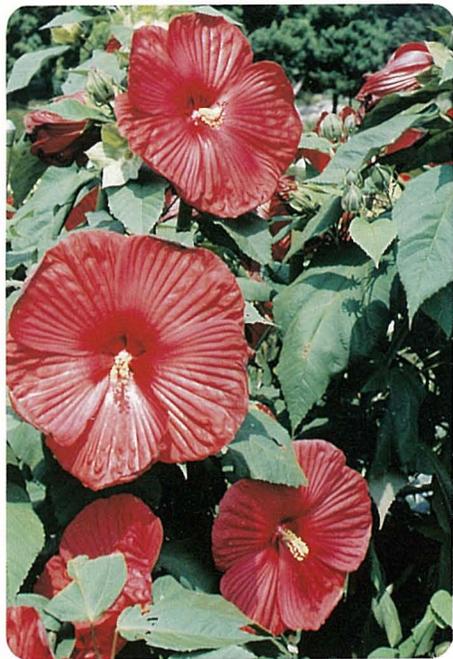
オオデマリ



ピラカンサス



アオギリ



アメリカフヨウ



コデマリ



サルスベリ



ツバキ

とやまで多く使われている樹

	高木	中木	低木	つる性植物ほか
常緑広葉樹	カシ類 シイノキ タイザンボク タブノキ ツバキ モチノキ モツコク ユズリハ	カクレミノ キンモクセイ ゲッケイジュ サザンカ ネズミモチ ヒイラギ ヒサカキ	アオキ イヌツゲ キョウチクトウ クチナシ シャクナゲ ジンチョウゲ マサキ ヤツデ	ソテツ バラ フジ
常緑針葉樹	イチイ カイヅカイブキ スギ ツガ ヒノキ ヒマラヤシーダー マキ類 マツ類	コノテガシワ	ハイビヤクシン	
落葉広葉樹	アオギリ アキニレ ウメ カエデ類 ケヤキ コブシ サクラ類 サルスベリ シラカバ シダレヤナギ トチノキ ナツツバキ ナナカマド ニセアカシヤ ハナミズキ ハルニレ フウノキ プラタナス ホオノキ ポプラ エンジュ モクレン ヤナギ類 ヤマボウシ ユリノキ	ウツギ ウメモドキ オオデマリ ハナカイドウ ハナズオウ マユミ ムクゲ	アジサイ アベリア エニシダ キンシバイ コデマリ ツツジ シジミバナ シモツケ シヤリンバイ ドウダンツツジ ナンテン ニシキギ ハギ ハクチョウゲ ボケ ボタン ラカンマキ ヤマブキ ユキヤナギ ライラック レンギョウ	
落葉針葉樹	イチヨウ メタセコイヤ			

## カシ類

- ブナ科
- 本州関東以南、四国、九州、朝鮮に分布する。
- 常緑広葉高木 高さ15～20m



## ■ シラカシ

- 別名クロガシ
- 本州中部以南、九州、四国、朝鮮に分布する。
- 常緑広葉高木 樹高15m。

材が白いからシラカシといわれる。

## (特 徴)

樹皮は黒緑褐色で平滑で枝葉がよく密生する、葉は長だ円形長さ5～12cm、縁に小さな鋸歯があります。果実は10月にドングリがつきます。

若いうちは日陰に耐え、適湿地を好み、生育が早い。刈りこみに耐えるが大気汚染に弱い。移植やや困難、煙害、潮害、風害に強い。

## (扱い方の要点)

植え付けは5月が適期で、秋植えは寒さに向かってよくない。場所は、やや湿潤で粘質な肥沃地がよく、半日陰でもよい。萌芽力もあり、刈込みも容易です。

## (管理と手入れ)

広い庭では放任仕立とし、狭い庭はズンドウ仕立、ボウガシ仕立とします。刈り込みは、11月または4月に強く切り、6月～7月は、徒長枝を整理する程度の軽い剪定をします。

## (病虫害)

夏から秋にかけて黒い大きいアブラムシが発生するので、デープレックス乳剤かエカチン乳剤で駆除します。

### (育て方のポイント)

実生苗は直根性で側根が少ないので、直根を切って側根を出させるようにする。刈り込みは、よく生長するので年2回は行いたい。

### (利 用)

庭木としては太い幹を4～5mで切りつめ、太い枝を4～5本切りつめ、小枝をださせてズンドウ仕立とします。

列植して側面を平たく刈りこんだ生垣も上品です。その他防風垣として表日本でよく使われています。

## ■ アカガシ (オオバガシ、アカガシ)

### (特 徴)

富山県が北限です。

葉はカシ類で最も大きく、先端に鋸歯があります。葉は厚く光沢があり、葉の裏は粉白色が特徴的です。耐寒性はシラカシよりややあります。陰樹。生長はカシ類で最もよく生長する。萌芽力もあり刈込みに耐える。移植はやや困難です。材が赤いのでアカガシといいます。

### (扱い方の要点)

腐植質に富んだ適潤性の土壌でよく育ちます。

乾燥地でも育ち、生長が早く、刈り込みに耐えるので、関西以南で生垣、防風垣によく使われている。

### (病 虫 害)

シラガシに準ずる。

### (育て方のポイント)

シラガシに準ずる。

### (利 用)

庭園、公園用に使われる。棒ガシに多く使われます。

## ■ アラカシ (クロガシ)

### (特 徴)

アラカシは、シラカシに似る。葉の上半分は鋸歯が大きく葉脈も目立つ。葉は丸味がある。

日本海側では新潟県が北限となっています。葉は厚い。

幼時は耐陰性が強いが、成木になると陽光を必要とします。移植はやや困難です。

### (管理と手入れ)

適潤な肥沃な土壌を好みますが乾燥地でもある程度育ちます。生長も早く、剪定にも耐えます。

(病虫害)

シラカシに準ずる。

(育て方のポイント)

シラカシに準ずる。

(利用)

公園、庭園に使われ、耐潮に優れ、枝葉が密集しているので防風、防潮林としてもよい。バイ煙や、大気汚染には強いので公害樹としても利用されます。

■ ウラジロガシ

葉の形はシラカシに似て、葉裏に粉白色の伏毛があります。葉は他に比してやや薄く縁が波打っています。

シラカシより寒い地方に分布し、積雪にもよく耐えて生育しています。

この木の材は硬く、木炭として品質のよい品が生産されています。

(管理と手入れ)

(病虫害)

(育て方のポイント)

} シラカシに準ずる。

Q & A

Q、ツバキの新芽が光沢がなく、黄ばんでつぎつぎに落葉してしまうのはなぜですか。

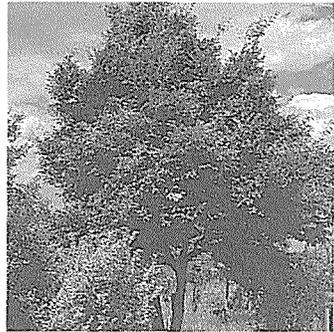
A、ツバキの葉は、5～6月に新葉と交替するので、古い葉は黄ばんで落ちますが、新葉が、黄色くなったり、葉が落ちたりするのは、病気にかかったもので根に原因があると思われます。

多湿で根ぐされを起こす場合かウイルスによる病害も考えられます。

多湿の場合は、排水か、移植します。ウイルス病は葉に斑がでる病気で、なかなかおしにくく拔取り、土壌消毒をして新しいものに変えるとよい。

# シイ

- 別名 スダジイ、シイノキ
- ブナ科
- 本州日本海側では佐渡以南、四国、九州などに分布する。
- 常緑広葉高木 高さ30m



## (特 徴)

樹は広だ円形となる。葉は卵状で先がやや尖り全緑で互生し、葉はよく茂る。表面は淡褐色。果実は翌年の秋に熟しドングリとなる。生長が早く、適潤地によく育つ。潮風、塩害にも強い。刈り込みにも耐えます。やや陰樹。

## (扱い方の要点)

植え付けは、サクラの終わった頃から9月までがよい。寒さに弱いが、とくに樹冠が大きくなり降雪を受け易いのであまり雪の多いところは不向きである。萌芽力もあり、移植も容易です。

## (管理と手入れ)

放っておくと、樹冠が大きくなり、狭い庭なら1本で覆ってしまいます。枝すかし、散らし玉、生垣もおもしろい。手入れは枝抜きと、刈り込みだけでよい。刈り込みは、5月には強く、7月、10～11月も刈り込みができます。

## (病 虫 害)

うどんこ病にはカラセン水和剤、カミキリムシ、テッポウムシにはスミチオン乳剤、アブラムシによるすす病はマラソン剤かスミチオン剤で駆除します。

## (育て方のポイント)

とくにない。

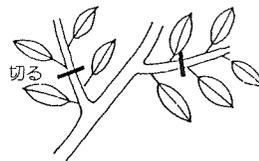
## (利 用)

この樹はあらあらしさがあり、小枝がよく密生するので、庭の主木にも十分使える。葉裏が褐色で、表が濃緑色のところの渋さが大正時代から好まれている。

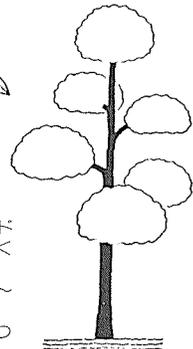
公園、庭園、景観樹としてよく使われる。庭にはズンドウ切物として5mくらいで頭を切ったものが使われる。

- 高岡市の古城公園の体育館周辺に大木が多く育っています。

枝の切り方



刈り込み仕立て



- ①庭木には太い枝を何本か残してズンドウ切りにし、そこから芽を吹かして丸く刈り込む。
- ②枝を切る場合には必ず基部の葉を2～3枚残して切る。
- ③古木に見せるため、幹の一部に傷をつける場合がある。

## タイザンボク

- 別名 ハクレンボク
- モクレン科
- 北アメリカ南部地方原産で、東北地方南部以南に植栽されている。
- 常緑広葉高木 高さ10～20m



### (特 徴)

5～6月頃、卵白色の洋杯形の香りのよい大型（10～15cm）の花をつけます。花弁6枚、葉はだ円形で10～20cm互生し、革質で硬い。裏面には茶褐色の毛が発生する。

### (扱い方の要点)

寒さをあまり好まないが、富山の平野部では十分に育ちます。北風のあまりあたらない日当りの良い場所がよい。植え付けは、4月～9月がよく、新梢の伸びる時期と真夏を避けたほうがよい。この樹は樹冠が重いので植え付け後は枝抜きをします。

### (管理と手入れ)

剪定を好まない。また整枝の必要もない。

狭い庭では、切らなければならない枝は途中から切らずつけ根から切ります。時期は10月～11月か、3月がよい。

### (花つきをよくするコツ)

やせ地や、地下水位の高いところは花つきが悪くなるので、客土するか肥沃土に植え直すようにします。

また、8～9月に翌年の花芽ができるので枝先を切らないようにします。枝を切ったあとの切口がふさがりにくいので、切り口につぎロウを塗っておきます。

### (病虫害)

カイガラムシが発生する程度で、病虫害の被害は少ない。カイガラムシが発生した場合は、冬期に機械油乳剤か石灰硫黄合剤を散布します。

### (利 用)

広い庭では主木として使ってもよい。一般には西側の目かくし用の植栽が多い。

### (その他の種類)

- ホソバタイザンボク 葉が細く、下面の毛が少ない。
- ヒメタイザンボク 落葉性で、下面に帯白色の細毛がある。

## ツバキ類

- ツバキ科
- 日本、中国、東南アジアに分布する。
- 常緑の高木～低木
- 冬期に咲く代表的花木



### ■ ヤブツバキ

- 別名 ヤマツバキ
- 日本原産で北海道南部以南に植栽されている。
- 常緑広葉高木 高さ15m。

#### (特 徴)

極陰樹。生長遅い。萌芽力があり刈り込みにも耐える。

煙害、潮害、大気汚染に強い。

2～4月に赤色の五弁の花が半開きに咲く、ツバキの原種。

耐陰性ですが日当たりでもよく育ちます。肥沃で湿潤な土壌を好む。

#### (扱い方の要点)

普通の庭なら十分育ちます。午前中日が当たって西日の当たらないところがよい。植え付けて活着し元気になるまで2年はかかります。植え付け後、根がまだ十分土になじんでいないと蕾が多くつき枝葉は伸びない。もし全てに花を咲かせると樹が枯れたりします。日照りを半分にすると枝も伸び、適当に蕾がつき、きれいな花が咲きます。

#### (管理と手入れ)

植え付けは、暖地では枝の生長期を除いて、いつでも植えられるが、富山では3月下旬から花の咲いている間と、8月中旬～10月上旬がよい。植え込みは盛土して高植えとします。

施肥は、元肥は施さない。花が終わったらお礼肥を、雪囲いの終わったあとで寒肥として、油カスと骨粉を混ぜたものを株元へ施します。

整枝は花後がよい。強い剪定は7月中旬～9月上旬がよい。

乾燥を嫌うので、ワラや落ち葉などでマルチング（土壌被覆）をしてやるとうい。

6、7、8月に施肥はしない（夏芽が伸び、その枝が枯れ、蕾は飛んでしまう）。

#### (病 虫 害)

新芽が伸び始め、軟らかい枝にアブラムシがつくので、速効性のマラソンか、スミチオン乳剤を散布します。

初夏に発生するカイガラムシには、速効性のカルホスかオルトランを散布します。

葉巻虫には浸透移行性のダイダストンかオルトラン1000倍液を散布します。

### (花つきをよくするコツ)

ツバキはよく蕾をつけますが、咲かずに落ちてしまうことがあります。冬期の乾燥の場合に多い。富山では積雪であまりみられないが、少雪のときに注意が必要で灌水をしてやります。

窒素の過多、やせ地は蕾のつきが悪い。

### (ふやし方)

自生、挿し木、接ぎ木ができるが、一般に挿し木を行う。

7月中旬～8月中旬に新梢を10～15cm切り、赤玉か鹿沼土に挿しつけ2～3年そのままにしておけばよい。

### (利 用)

庭の植え込み、日当たりのよくない裏庭、池の端などさまざまに植えられる。積雪で淋しい冬の庭に赤やピンクの色彩の花と、葉の濃い緑は富山の冬には欠かせない樹です。

### (ツバキの古木、発祥地の紹介)

- 日本一のユキツバキの大株  
婦負郡山田村今山田 (4月中、下旬開花)
- 日本一のヤブツバキ巨樹  
氷見市老谷 (4月上～下旬開花)
- 日本一のユキツバキの群生地  
下新川郡宇奈月町僧ヶ岳 (500～1000m 5月上、中旬開花)
- ユキツバキの群生地  
八尾町桐谷の赤倉の池、白木峰。山田村牛岳。城端町細尾峠、縄ヶ池。福光町医王山など。

### (その他の樹種)

#### • ユキツバキ

日本海側の多雪地帯の山地に自生する。本県では海拔500m以上のところに分布する。高さはヤブツバキより低く1～3mくらいであり、根元から多く分枝して株立状となります。基本的には花は赤色で五弁の一重咲きですが、非常に多くの園芸種がつくられています。

雪に強いが、寒さはヤブツバキより劣ります。

発根性がよく移植は容易です。

## タブノキ

- 別名 イヌグス、タブ
- クスノキ科
- 本州中部以南、四国、九州、台湾、中国に分布。
- 常緑広葉高木 高さ20m
- 常緑広葉樹の代表的な木



### (特 徴)

自然樹形にしても、こんもりと美しく、紅橙色の芽出しもすばらしい。クスノキ科の仲間としては寒さに強く、日本海側では山形県まで分布している。本県では、朝日町鹿島樹叢、氷見市朝日樹叢などに古木を見ることができます。

樹皮は灰褐色で枝葉太く、小枝は緑色、葉は柄があり互生し枝の先に集まり、長だ円形で大きい。葉質は、なめし皮のようで緑色で光沢があります。移植やや困難。刈り込みに耐える。風害、潮害に強い。

### (管理と手入れ)

自然樹形で風格がでる木で、刈り込みの必要はない。とくに土質を選ばないが肥沃な適潤な土壤がよい。

### (病 虫 害)

とくにみられない。

### (利 用)

大きい庭に自然樹形のままでよいが、公園などに単植すると見ごたえがあります。公園、神社、仏閣などによい。

庭の目つぶし、防風、防潮林にもよい。

## モチノキ

- モチノキ科
- 本州（宮城県以南）、四国、九州、沖縄、中国に分布する。
- 常緑広葉高木 高さ6～10m
- 樹皮からトリモチをつくったことからモチノキという。



### （特 徴）

葉は互生し、倒卵形で全縁、やや硬い革質で、上面は深緑色、雌雄異株、4月に黄緑色の小花が集まって咲く。果実は球形で径1cm。秋に赤く熟します。

適湿地を好み、やや日陰にも耐えるが、生長はやや遅い。剪定、移植がやすく、潮害、大気汚染にも強い。

### （扱い方の要点）

暖地系の樹であるが東北地方まで植栽が可能です。

植え付けは5～10月中旬にできますが、6～7月、9月がとくによい。穴を大きく掘り堆肥などを入れ、木の表裏をきめ、やや高植えとします。

### （管理と手入れ）

玉仕立てがよい、太い枝を数本のこし、小枝をださせて大きな玉とします。その後は玉仕立ての基本に沿って芽摘みをします。

若いうちは、胴吹き、徒長枝がよくでるのでかきとります。整枝、剪定は6～7月と11月の2回行う。

### （病 虫 害）

すす病、カイガラムシが発生しやすいので、6～7月にスミチオン乳剤かデナポンを10日おきに2～3回散布します。

ハマキムシも6～7月ころ発生するが、カイガラムシの防除と同じ方法でよい。

### （育て方のポイント）

やせ地を嫌うので土壌改良して植えます。若いときあまり刈り込まないで大きくなってから形をつくります。

庭に植えるときは、実のなる雌木を植えます。

### （利 用）

強い剪定に耐え、移植が容易であり、庭木としては欠くことのできない主木の一つです。生垣にもよく、また日陰にも耐えるので北側の植え込みによい。

公園、庭園、景観樹として使用されます。

## ユズリハ

- タカトウダイ科
- 本州の福島以南、四国、九州、沖縄、中国に分布する。
- 常緑広葉高木 高さ10~15m



### (特 徴)

新葉がでると古葉が落ちて葉をゆずることから縁起木として正月に使用される。葉は大きな葉が枝先に集まって付き、古い葉は垂れ下がる。葉柄が赤く、とくに若葉の頃が美しい。葉質は硬く、革質で全縁、裏面は粉白色。枝は太い。

### (扱い方の要点)

適湿地を好み、耐陰性があるが生育は遅い。大気汚染に強い。土質は粘質の湿润地を好み、日陰にも強く日当たりのよい場所は美しく仕上る。やせ地、乾燥地を嫌い、剪定しても萌芽しにくい。樹形を整える剪定は8月の生長休止期に少しずつ行う。

### (病 虫 害)

ほとんどない。

### (育て方のポイント)

冬の乾燥した風を嫌うので風が直接あたらないような場所を選ぶ。生育の悪いものは春先堆肥、鶏糞などの寒肥をやればよい。窒素分の多い肥料をやると枝がまばらになるので避ける。

### (利 用)

縁起木で庭の主木にもなり、日陰にも強いので建物の北側の植栽や目つぶしに利用されます。

新芽は赤いものと緑色のものがあり、赤芽は葉柄も赤く美しいので庭植にこれを選びたい。

### (その他の種類)

- ・エゾユズリハ 高さは1~3.5mと低く日本海の多雪地に自生するユズリハの低木性のもの。
- ・ヒメユズリハ 葉が垂れずピンと伸びる。高さは10mくらいになって海岸近くに自生すし潮風に強いが寒さに弱い。



## イチイ

- 別名 アララギ、オンコ
- イチイ科
- 北海道、本州、四国、九州ほか  
アジア東北部に自生し、飛騨地方にみられるが本県には自生がみられない。
- 常緑針葉高木 高さ10～15m



### (特 徴)

5～6月の新緑は美しい。極陰樹。

生長が遅いが、耐寒性に強く、寒地でもよく生育する。樹皮は赤褐色、雌雄異株、3～4月に開花し、秋には赤色の実が美しい。

変種のキャラボクは、日本海側の山地に自生し、庭木に多く用いられる。樹形は広卵形で下枝が長く保つ。刈り込みに耐える。移植はやや困難。

### (扱い方の要点)

イチイは寒い地方の庭に多く用いられ、キャラボクは低木で幹が立たず暖かい地方でもよく生育するので、庭木として多く用いられる。また、いろいろの形に仕立てることができる。

### (管理と手入れ)

根が粗大で細根が少ないので、植え付けは、3月下旬～7月、10月～11月がよい。仕立て方は、イチイは円錐状。キャラボクは玉仕立てが多い。刈り込みは7月と11月に行うが、枝を発生させるためにできるだけ回数を多くするほうが仕上がりがよい。

剪定は徒長枝、トビ枝はできるだけ早く切ります。

施肥は芽の出る前に、有機質を多く入れると葉が美しくなります。

### (病 虫 害)

樹勢が弱まってくると、カイガラムシ、ハダニ、ヒバノキクイムシが発生するので早期防除をします。

### (利 用)

イチイは庭の主木や生垣に、キャラボクは狭い庭の主木や石づき、池の端に多く使われ、萌芽力が旺盛なのでトピアリー（いろいろな形に刈り込むこと。）などの利用ができます。

気品のある樹種です。

## カイズカイブキ

- 別名 カイズカビヤクシン
- ヒノキ科
- 園芸種。北海道、本州、四国、九州に植栽されている。
- 常緑針葉高木 高さ5～8m



### (特 徴)

陽樹で潮風、大気汚染に強い。耐乾性もあるが生育は遅い。樹形は狭円錐形で、枝葉はやや太く直立する。側枝は旋回して伸び火炎状となり葉先は丸味を持っている。葉は扁平型で先は丸味がある。

### (扱い方の要点)

植え付けは3～4月、9～10月がよい。場所は日当たりのよい肥沃な乾燥気味のところがよく、日陰は避けたほうがよい。

冬期は葉先が変色しやすい。耐寒性もあります。

植え付けは、深植えにしないで、盛土をして植える。苗の場合、根が少ないので、枝先をつめたり、枝すきして植えます。

仕立て方は、円錐形、円筒形にするが、玉仕立てでもできる。芽摘みを刃物で切ると、切口が枯れたように見苦しくなるので、早目早目に指で摘む。摘む時期は何時でもよい。

### (病 虫 害)

さび病、ハダニの発生があるが、ナシの代表的な病気であるさび病の中間寄生をするので、富山市呉羽のナシ地帯では植えないほうがよい。

### (育て方のポイント)

日当たりのよい場所に植えることを第一とし、地下水位の高いところは盛土し、排水をよくする。仕立て方はより正しい芽つみを行う。肥料ぎれがすると枝が貧弱になるので肥培しながら芽摘みを繰り返す。

### (利 用)

いろんな仕立て方ができ、和風の建築にも合い、列植、垣など利用が多い。洋風の庭や、公園には欠かせない樹です。

## スギ

- スギ科
- 本州、四国、九州に分布する日本特産で、全国で用材生産を目的に多く植栽されています。
- 常緑針葉高木 高さ30m
- 富山県の木として、タテヤマスギが指定されています。



### (特 徴)

葉は湾曲し先が尖り、雌雄同株、雄花は淡黄色の花粉をだす（スギ花粉症のもと）。球果は、秋に球状で長さ1～2cmの大きさになります。幹は通直で褐色の肌となります。

陽樹で、適当に湿気のあるところを好み、生育がよい。刈り込みに耐えるが大気汚染には弱い。

### (扱い方の要点)

園芸品種も多いが、庭木として利用されるものは数種しかない。植え付けの時期は3～5月、9～11月がよい。陽樹であるが、根元に日が当たるのを嫌う。排水のよい湿潤地に適する。

### (管理と手入れ)

自然の樹形では、よほどの広さがないと無理なので刈り込みを行う。時期は3月萌芽前と新梢の固まった7月には軽く、12月に強く整枝します。最初に基本に沿って形をつくり、その後は形を考えて整枝を続けます。

### (病 虫 害)

苗木のときは、赤枯病、立枯病が発生しやすい。マンネブ剤を10日おきに散布します。

害虫はアカダニが発生するのでジメートエイト乳剤か、ケルセン乳剤を散布します。

### (育て方のポイント)

幼時は日陰を嫌うが成木になればそれ程でもない。十分に日が当たり根元に日が当たらないところを好みます。

### (利 用)

京都の北山ダイスギは日本的な庭には欠かせない樹であり、数本の寄せ植、列植もよい。富山の平野部では、屋敷林の主要樹木として南風を防ぐために南側に多く植えられています。このほか、盆栽、鉢植えなどにも利用されています。

## ツガ

- 別名 ホンツガ、トガ
- マツ科
- 本州関東以南、四国、九州の亜高山帯下部にかけて分布している。氷見の尾根筋にみられる。
- 常緑針葉高木 高さ30m



### (特 徴)

樹形は整って円錐形をなし、高さ40mに達するものもあります。幹は通直、灰褐色をなし深い縦溝ができる。樹皮は硬く厚い。

葉は先端がやや凹み葉裏は白色の2列羽状の気孔帯があります。

適度に湿った土壌がよい。幼時は耐陰性があるが成木になって日当たりを好みます。

### (管理と手入れ)

自然な形がすばらしく風格があります。刈り込みは萌芽力が弱いので行わない。枝も太く、細い枝は少ない。

施肥は、植え付けに油粕や化成肥料を十分入れて、初期生長をよくするようにします。

老木になると、材に腐りが入ったり、雪害によって枝が雪折れなどにあい見苦しくなるので、枝の整理が必要となります。

### (病 虫 害)

カイガラムシの発生があるので、6月下旬ころから、ディプテレックスを10日おきに2～3回散布して駆除します。

### (利 用)

木が大木になり、狭い庭には不向きで、大きい庭、公園、寺院の境内によく植栽されています。

上市町眼目の立山寺の参道はツガの並木で有名です。

## ヒノキ

- 別名 ホンヒ、ヒバ
- ヒノキ科
- ヒノキは、本州福島以南、四国、九州に分布する。
- 常緑針葉高木 高さ25m。本県の自生はごく稀である。



### (特 徴)

樹形は広だ円形となる。幹は直幹、枝は細く水平にでる。葉は鱗状で対生している。幼時は耐陰性があり、乾・湿中ばのところが好み、丈夫で育てやすいが、寒さにやや弱い。生長は早く、刈込みに耐えます。

### (扱い方の要点)

植え付けは、3～4月と9～11月がよい。植え付けは表土の深い肥沃な適潤地がよい。耐陰性もあるが日当たりのよいところが葉が美しくなります。

### (病 虫 害)

庭木の場合は、さび病とハダニの発生を見るくらいですが、さび病はナシ、ボケ、カイドウに中間寄生をするため一緒に植えないようにする。春先ポリオキシンAL水和剤を2～3回散布する。ハダニはジメートエイト乳剤を2～3回散布します。

### (育て方のポイント)

円錐形に刈り込まれることが多い。ヒノキの仲間のヒムロスギも、ヒバ類なども一緒であるが、刈り込みを枝を伸ばしてから刈ると枝枯れを起こしやすいので少し早めに少しずつ刈る。

小枝が密生してくると、通風が悪くなり枝枯れを起こしやすいので、整枝をして防ぎます。

### (利 用)

公園、庭園、列植、生垣などに利用されます。

育てやすく安価である。背景林などにも利用します。

## ヒマラヤシーダー

- 別名ヒマラヤスギ
- マツ科
- ヒマラヤの北西部、アフガニスタン原産で、北海道南部から九州まで植栽されている。
- 常緑針葉高木 高さ20～30m



### (特 徴)

枝を水平に伸ばし全体として広だ円形の美しい樹形になる。その雄大な姿は世界三大公園樹の一つに数えられます。

陽樹で生長が早い。幼木は、半日陰を好み成木は日当たりを好みます。土壌は適潤な肥沃地を好む。雪には強いが、寒さや強風にはあまり強くない。

刈り込みに強いが大気汚染にやや弱い。

### (扱い方の要点)

広い公園などに自然樹形で大きくのびのびと育てるのが最もよい。植え付けは春先の3月～4月、9月下旬～11月中旬までがよい。浅根性のため風に対して弱い一面をもっています。

### (病 虫 害)

とくにない。

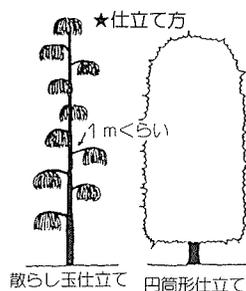
### (育て方のポイント)

育て方は、実生と挿し木でできるが、実生は日本では不稔生のものが多く、種子は輸入し、3～4月に播けばその年に30cmくらいになる。挿し木は成木しても根曲がりするので一般には行われない。

自然形はよいが、庭などに入れる場合は刈り込みをして円柱形または、散らし玉づくりにする。生垣などにも利用できるが、年2～3回の刈り込みと小枝抜きをして通風をよくしてやります。

### (利 用)

この樹は、公園、学校など広い場所に使いやすく、家庭の庭には剪定ができませんが不向きです。



## マキ類

- マキは昔から庭木としてマツとともに針葉樹の双壁とされてきた。  
生産は関東以西に限られ、生育が遅いことから庭木の横網とされてきました。



### ■イヌマキ

- 別名 マキ、クサマキ
- 本州南部、九州、四国に分布、本県にも一部植栽されている。
- 常緑針葉高木 高さ20~25m

### (特 徴)

葉はラカンマキより葉の幅が広く長くて疎い、雌雄異株、雌樹は秋に赤い実をつけ後には紫色となります。

### (扱い方の要点)

寒さに弱いので、富山では寒風の当たらないところで利用される。植え付けは4~9月下旬ころまでは可能であるが、5~6月が最もよい。根があまりよくないものは元肥を入れないで追肥にしたほうがよい。

### (病 虫 害)

ハマキムシ、カイガラムシ、アブラムシが発生します。ハマキムシにはスミチオン乳剤、アブラムシにはエストックかデープデレックス。カイガラムシはふ化期にスミチオン乳剤を散布します。

### (育て方のポイント)

寒さや寒風に弱いので、風の当たらない場所に植えて、よく肥培をしましょう。刈り込みも可能です。

### (利 用)

庭の主木として最適である。マツと違ってミドリ摘みなどの手間がいらない。円筒形、単植などにもよい。

### (その他の樹種)

#### ラカンマキ

原産は不明ですが、関東以西に植栽されている。イヌマキより葉が密生し、幅が狭い。

寒さに弱く暖地向きの樹木である。とくに幼樹は弱い。湿った土壤を好み、乾燥地では衰弱する。耐陰性はよい。

## マツ類

- マツは、日本で造園木として昔から重要視されてきた。
- 日本にも多くの種類があり、地はい状のものから高木までさまざまなものがある。



### ■クロマツ

- 別名 オマツ
- マツ科
- 本州海岸沿い、九州、四国に分布している。
- 常緑針葉高木 高さ30m

### (特 徴)

樹皮が灰黒色で老木では亀甲状に割れます。針葉は剛直で男松ともいい葉先はさわると痛い。新芽は毛に包まれています。極陽樹、萌芽がない。土地を選ばず乾燥にも耐える。

### (扱い方の要点)

植え付けは、畑で養成されたものは一年中取扱いできるが、とくに3～4月、10月～11月がよい。植え場所は肥沃な砂質土壌がよい。

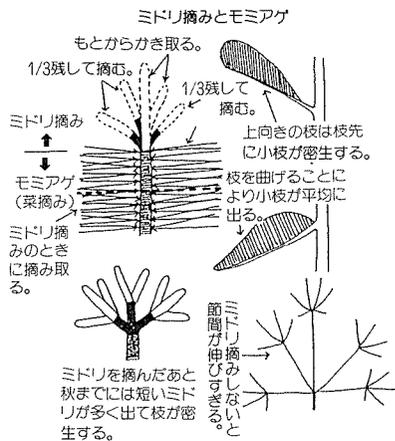
マツ類は、手入れを怠ると全く値打ちのない木になるので、5～6月のミドリ摘みと暮れのモミアゲは必ず毎年行います。また、葉のないところから芽吹きをしないので、葉のあるところまで切ります。肥料はいらない。

### (病 虫 害)

病害では、葉ふるい病、すす病が発生する。葉ふるい病にはマンネブ剤を春から数回かける。すす病はカイガラムシを防除すればよい。虫害としてはマツクイムシ、マツケムシ、ハダニ、アブラムシが発生する。マツクイムシ、マツケムシは、スミチオン乳剤を散布する。

### (利 用)

公園、和風庭園、景観樹、防風、防潮、神社、寺院などに多く利用されている。四季変わらぬ緑と雄大な樹形が楽しめる。日本式庭園の主木として品位と貴祿



は絶品であり古くから多く使われている。

## ■ アカマツ

- 別名 メマツ
- 本州、四国、九州まで山地に広く分布している。
- 常緑針葉高木 高さ30m。
- 本県では海拔500m以下に多く分布しています。

### (特 徴)

樹皮が赤く、老木では下部から亀甲状に割れる。葉はクロマツより細く軽くしなやかである。全体としてクロマツよりおだやかな姿をしています。女松といわれています。

陽樹で生長は早く耐乾性が強く、やせ地でも育つが、潮害や大気汚染にやや弱い。極陽樹。萌芽がない。

### (扱い方の要点)

植え付けなどは、クロマツに準じて行えばよい。

庭ではクロマツほど多く使われないが、赤い肌と姿のやさしさから、独立木、寄せ植えに使われ、品のよい明るさがあり、アカマツは女性的な優しい樹形を生かした仕立て形にします。幹を素直に伸ばし、枝を強くはらないようにミドリ摘みを強く行わないようにします。冬期には雪吊りを必ず行うようにします。

### (病 虫 害)

クロマツに準じて行う。

### (育て方のポイント)

水はけを良くするため高植えにします。クロマツと同様、ミドリ摘みとモミアゲは欠かすことはできない。

### (利 用)

公園、庭（主木、門かぶり）神社、寺院、記念樹などによい。  
また防風林などにも使われる。

## ■ ゴヨウマツ

- 別名 キタゴヨウ
- マツ科
- 本州、九州、四国に分布している。
- 常緑針葉高木 高さ25m。

### (特 徴)

葉はクロマツ、アカマツより短く5本束生する。樹形は円錐形で、モミ属によく似た形となる。樹形が美しい、樹皮は沈んだ感じの暗灰色で華やかさに乏しいが落ち着いた雰囲気がある。

### (扱い方の要点)

生長が遅く、庭木に使えるものはかなり年月を要する。他のマツ類より日陰に強い。日当たりのよい所を好み、枝が日陰になると枝枯れを起こすので一本立が望ましい。植え付けは排水が悪いと根ぐされを起こすので高植えにします。5月のミドリ摘みと11月のモミアゲは欠かせない。他のマツに比べて葉が短いので強く摘む必要はない。

小枝が密生するので、弱い枝、フトコロ枝は抜いて全体に枝葉バランスに配慮します。

### (病虫害)

クロマツに準じる。

### (育て方の要点)

湿気と日陰をきらうため、場所を選んで植えることが大切です。マツ類は弱ってもすぐに枯れることがなく、じわじわと弱枯れてくるので見てわかるころではすでに遅すぎます。

### (利用)

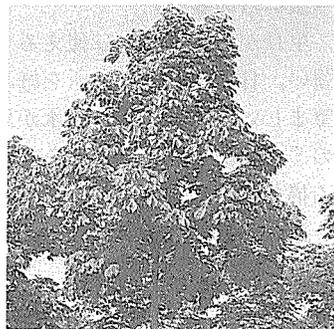
自然樹形では、洋風の庭園や公園にも似合う。庭では主木をはじめ、門かぶりなどにも使えますが、生長が遅いため庭植えより、鉢植えなどに多く使われます。

### その他のマツ

- ・タギョウショウ (多行松) アカマツの変種で、根元近くで幹が多数分岐し、傘形の樹形になる。樹高は2～3mにしかない。
  - ・チョウセンマツ (チョウセンゴヨウ) 日本のゴヨウマツに似る。
  - ・ハイマツ 高地に自生し寒さに強く、日本庭園の石付き、ロックガーデンに使われます。
  - ・ダイオウマツ 葉の長さが20～40cmになります。3葉束生、移植困難です。
  - ・リキダーマツ 高さ20～30mで、3葉で、枝つきはまばらです。
  - ・テーダマツ 葉は3葉で長さ15～25cmと長く垂れる。樹高40m。
  - ・バンクスマツ 2葉で茎が短く剛直で、枝や幹が曲がり葉が少ない。
  - ・カリプマツ 高さ25～30m。3葉。生長早く枝ぶりが良い。
- など他にも多くの種類があります。

## アオギリ

- アオギリ科
- 中国、台湾、インドシナ、沖縄に分布している。我が国全土に植栽されている。
- 落葉広葉高木 高さ15m



### (特 徴)

葉は長く、葉柄があり互生し、掌状に浅く3～5裂で枝先に集まってつく。6～7月に大型の円錐花房をだし多数の淡黄色の花が咲く。果実は、未熟のまま舟形状に開いて緑の球状の種子がつきます。樹皮は幼・中木は緑色、老木は灰白色となります。

### (扱い方の要点)

樹勢は強健で、土を選ばず、潮害、大気汚染にやや強い。萌芽力が強く、強い剪定にも耐えます。樹皮は傷つきやすいので移植時に注意しましょう。

### (管理と手入れ)

この木は放任しても良い樹形をつくるので管理はしやすい、できれば自然形で育てたいが狭いところでは枝を切りつめてもよい。

### (病 虫 害)

虫害としてはワタノメイガ、マイマイガによって葉が食害されますので、デープレックスまたはスミチオン乳剤を散布して駆除します。また病害では、褐斑病が発生し葉に小さな褐色の斑点ができて全葉が枯死するので、7月に発生したらダイセン水和剤500倍液を数回散布します。

### (利 用)

この木は、庭木よりも、公園、学校、街路など広いところに列植すると見ごたえがあります。

## ウメ

- バラ科
- 中国原産で古くから日本人に愛され、早春を告げる花として珍重され、北海道から沖縄まで植栽され鑑賞されている。
- 落葉広葉高木 高さ5～10m



### (特 徴)

2～3月ごろ、葉がでる前に白または桃色の五弁花が開き花柄が短い。葉は互生し、卵形、長さ4～8cmで先が尖り、縁の細かい鋸歯があり、葉の質は軟らかい。果実は6月に黄熟する。

寒さに強く、性質も強健で、日当たりのよい腐植質に富んだ肥沃土がよい。

### (管理と手入)

ウメは、腐植質の肥料を十分与えないと徒長枝がでやすい。栽培は比較的容易だが、美しい開心自然形に仕立てるためには剪定が必要で12～1月に長すぎる枝を切りつめ、ふところ枝を除いて陽光を入れるようにします。

「サクラ切るバカ、ウメ切らぬバカ」という言葉があるように、ウメは強い剪定に耐え、萌芽力も強い。庭木としてのウメや、採果用のウメは、12月下旬～1月に行うが、鉢植のウメは花の終わった直後に強く切り込みます。

庭木でも、枝数をできるだけ少なくするように仕立てると、樹令があまりたたくなくても、古木の感じをつくることができます。

ウメは、7～8月に花芽ができる。花芽のつきにくい徒長枝は6月でも生長が止まらない。花芽がつくと、葉が内側に湾曲するのでわかります。

施肥は、12～1月に寒肥として堆肥、鶏糞など有機質肥料と化成肥料をすきこみます。

### (病 虫 害)

病害としてこやぐ病があり、幹や枝に灰白色または灰褐色のビロード状の斑点を生じます。発生部分をナイフで削り取り、石灰硫黄合剤を1～2回塗布するとよい。

縮葉病は4～5月に新葉が縮みます。炭疽病は葉と実が侵される。この防除は4～6月にベンレートまたはマンネブダイセンを10日おきに散布します。

虫害は、ウメケムシが4月に発生し、枝の又に天幕状の巣を張って葉を食害します。カルホス乳剤を10日おきに2回ほど散布します。

カイガラムシは、12～1月にマシン油乳剤を散布します。

4月に、スミチオン乳剤を2回程散布するとアブラムシの発生を防除すること

ができます。

### (花つきをよくするコツ)

日陰地や湿地はまず避けなくてはならない。花芽の形成が8月ころなので、春に伸びた枝は絶対に切らないことです。夏芽、秋芽をのばさないようにします。

### (利 用)

庭園、公園、景観樹、添景樹、社寺境内などに利用されている。

鑑賞用として梅林が多くあり、庭にも主木として使われています。盆栽も人気があり、生花材料としても利用されます。

採果用としての植栽も多い。

### (ウメの種類)

ヤエシラウメ 花は白色か赤色で八重。

コウバイ 花は一重で赤い。幹も赤い。

リョウガクバイ 葉は緑で花は白色。

コウメ(シナノウメ) 花も実も小形、花は白色一重。

キバナウメ 花が淡黄色。

ザロンウメ 花が白色八重、実が集まってつく。

シダレウメ 枝が長く垂れる。

ガリュウバイ 幹や枝が地面にはう。

ブンゴウウメ ウメとアンズの雑種、花は半八重で淡紅色、実が大きい。

このほか、園芸種が300品種以上になるといわれています。系統的には、野梅性、豊後性、紅梅性、杏性の四つに区分されます。

## Q & A

Q、ウメを庭に一本植えてあるが、毎年花は咲くが、実がつかないのはなぜでしょうか。

A、ウメは、自家稔性と不稔性があり、不稔性はいくら花が咲いても実はないものです。

品種間の交配不和はありませんが、開花の遅速がありますので、同じ時期に開花するものを2種類以上植えたいものです。

例えば、実ウメの代表「白加賀」は単植では結実が悪いので、他の品種「養老」「甲州小梅」などの品種を植えておくと実つきがよくなります。

## エンジュ

- マメ科
- 中国原産、北海道から沖縄まで植栽されている。
- 落葉広葉高木 高さ15m



### (特 徴)

樹形は主幹から広く張った円形に近い形をつくります。樹皮は緑がかった黒褐色、若枝は緑色、葉は互生し奇数羽状複葉、長さ15～20cmで、小葉は9～15枚で卵形をし先が尖り全縁。7～8月に小枝の先に頂生円錐花序で黄白色の蝶形花を多くつくります。実はジュズ状のくびれた果実をぶら下げる。

暑さ、寒さに強い。日のよく当たる、水はけのよい肥沃土がよい。萌芽力は強いが、剪定は弱い方がよい。

### (管理と手入れ)

強健で、枝が粗であり、植栽後数年はそのまま育ててから樹形をつくる。枝を整理したあと小枝をださせるため弱いせん定を繰り返すとよい。

移植は、小さいときはよいが、成木になると根巻きをしてから行います。

### (病 虫 害)

さび病が発生し、枝や葉が褐変する。また枝や幹がコブ状になりマツなどの中間寄生をする。

### (利 用)

葉が明るい感じで緑陰木としてよい。萌芽力が旺盛で形を整えやすいところから公園、街路、並木緑陰樹としては明るくて爽やかな感じのする木です。

中国では瑞祥木とされ門前に3株植えれば、その家庭に瑞祥があらわれ富貴、栄達に近づくといわれている。

## カエデ類

- カエデ類は、北半球の温帯を中心に150～200種自生する。日本では約25種が自生しています。モミジの形をしたものばかりでなくいろいろな形をしているものがあります。

カエデ類は概して寒冷的な気候を好み、都市環境に耐えられないものが多い。春は新芽、夏の若芽、秋の紅葉、落葉後の枝振りなど、さまざまな姿を楽しませてくれるモミジ、カエデは欠くことができない。

カエデは蛙手の意味で、葉先の裂け具合が蛙の手を連想させます。



### ■ イロハモミジ

(タカオモミジ、イロハカエデ)

- ・九州、四国本州南部（太平洋側）に自生する。
- ・落葉広葉高木 高さ10m。

(特 徴)

秋の紅葉が美しい。葉は対生、掌状に5～7に深裂け、重鋸歯、葉柄は長く淡紅色。萌芽力があり、潮風に弱い。東北地方南部から九州まで分布し、なかでも京都の高雄山の紅葉が有名です。日本でモミジといえばこれをさす程ポピュラーな樹です。

(扱い方の要点)

排水がよい適潤な風当たりが少なく、空中温度の高い水辺地が良い。

風当たりの強いところは、葉が傷みやすいので保護が必要です。

樹は1本1本個性をだすため剪定をしないで育てたい。

(病 虫 害)

日ざしが強かったり、乾燥がひどいときに粗皮病、がんしゅ病がでます。直射日光が当たらないよう配慮します。

うどんこ病がしやすい。また樹液に糖分が多いのでテッポウ虫の被害が多い。そのほか、アブラムシ、カイガラムシも発生します。

(育て方のポイント)

昼夜の気温差のある空中温度の高いところがよい。一日中日ざしの強いところは紅葉はキレイにならない。

## (利 用)

公園、和風庭園、風致樹、添景樹として使われています。

雅趣を重んじる日本庭園には、欠くことのできない樹種の一つであり。1本1本個性があるので規則的な配列は避ければよい。

この仲間日本海側に多く分布しているイロハモミジの変種で、葉がやや大きく、7～9開裂しているヤマモミジがあり、また、北海道から九州までに分布するヤマモミジに似て、葉が大きく、鋸歯が小さいオオモミジがあります。

## ■ ハウチワカエデ

### (メイゲツカエデ)

- 北海道、本州と四国の一部に自生する。
- 落葉広葉小高木 高さ10m。

### (特 徴)

葉が大きく、天狗のうちわに見立てたものでこの名がつく。

葉は同心形で、径7～12cm、掌状に浅く9～11裂し、縁は重鋸歯、若葉は白い綿毛が密生する。4～5月に暗紅葉色の小花が咲く。

秋の紅葉は濃紅色で非常に目立つ。樹形は1本立では横に張ります。

乾燥地、尾根筋にも生えています。

### (扱い方の要点)

イロハモミジに準ずる。植え付けは、落葉後3日以内または春3月中がよい。カエデ類は落葉中でも樹液の活動が激しく、枝を切ったり、根を掘ったりすると樹勢が弱くなります。

### (病 虫 害)

イロハモミジに準ずる。

### (育て方のポイント)

イロハモミジ同様程度の湿度の高いところが生育がよい。

夏の乾燥期には、たっぷり水をかけてやり枝を十分に伸ばすようにします。枝葉がよく伸びないと秋の紅葉もくすんでしまいます。

## ■ トウカエデ

### (サンカクカエデ)

- 中国原産で我が国に広く植栽されている。
- 落葉広葉高木 高さ15m。

### (特 徴)

主幹がまっすぐに伸び、枝はカエデ類には珍しく水平に四方にでる。大木になり、葉は浅く3裂し、寒冷な地方では紅葉はきれいになります。陽樹で生長が早い。

## (管理と手入れ)

カエデ類には珍しく、刈り込みに強い。根元に落葉を積んだり土寄せすることは嫌います。

## (病虫害)

イロハカエデに準じる。

## (利用)

樹勢は強健で、都市の悪環境に耐えて育ち、萌芽力も旺盛なので広い場所に植栽するとよい。街路樹としてもよく使われている樹種の一つです。

## ■ その他の種類

イタヤカエデ、ヒトツバカエデ、コミネカエデ、ミネカエデ、ミツデカエデ、チドリノキ、ハナノキなどがある。

## Q & A

Q、鉢植えのクレマチスを購入したが、来年も咲かせたいので、その管理をどうしたらよいか。

A、一般の鉢植えと同様に乾燥させないようにし、液肥を週一回くらい灌水時に与えると品種によっては秋にも開花します。

ただ、乾燥させすぎると鉢植えは痛みが早いので、一時的に庭に埋めておくのもよい方法です。

冬期は、つるを切らないで丸めておき、春になったら新しい支柱にからませてやりましょう。

こうして、肥料を絶やさないようにしますと、春には立派な芽が伸びてよい花がつけます。

## 豆知識

○黄葉は何故なるか。

秋の終わりに近づき、山々は緑から赤、オレンジ、黄色の錦に衣がえをします。これを黄葉や紅葉といわれます。

私達は、葉の色は緑色だと思っていますが、正しくは緑色+黄色なのです。つまり、緑の色素クロロフィルと黄色の色素カロチノイド（ニンジンやカボチャの色素と同じ。）のものが混じっています。

秋に気温が下がってくると、クロロフィルが分解してなくなってしましますが、黄色はそのまま残っていることによるものです。

## ケヤキ

- 別名 ツキノキ
- ニレ科
- 本州、四国、九州や一部東北アジアに分布する。
- 落葉広葉高木 高さ30m



### (特 徴)

幹は直立して、広だ円形の樹冠となる。葉は互生し狭卵形で先が尖り表はざらつく。陽樹。肥沃地を好み成育は速い。強い剪定にも耐え、風に強いが大気汚染に弱く夏期に落葉することがある。潮風に弱い。

### (扱い方の要点)

植え付けは、新葉が出る前と10～11月が適期である。場所を選ばないが排水のよい肥沃地がよい。刈り込みは、ケヤキ本来の良さが失われます。

### (病 虫 害)

単木の場合は必要ないが、公園、街路などの多いところは、うどんこ病、褐斑病、紋羽病などの被害があるので4-4式ボルドー液を散布する。

### (管理と手入れ)

とくに剪定、整枝の必要はないが、からみ枝、車枝など樹形をみだす枝は抜く。施肥は、とくに必要ない。成育の悪い場合は根の回りに溝を掘り、有機質や化成肥料を施します。

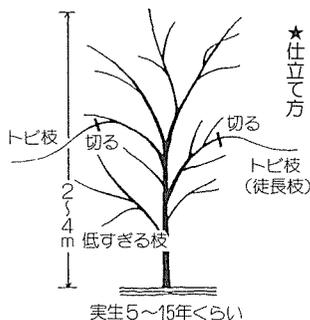
### (育て方のポイント)

ケヤキの美しさは、樹冠は細い枝がホウキ状が最もよい。そのためにも植栽場所は広いところに植えたい。若齢のとき、よく徒長枝を出すので、つけ根から切り取る。また、夏の乾燥に弱く葉が褐変して落葉するので灌水して敷ワラをしてやればよい。

### (利 用)

富山県では屋敷林や山地に多く自生しているし、よく植えられている。ケヤキは高く雄大な木であり、広い場所や公園、緑地などによい。街路樹にも多く取り入れられている。

- ・ケヤキは、富山市の木として指定されている。



## コブシ

- 別名 ヤマモクレン
- コブシ科
- 北海道、本州、九州、四国の山地に自生する。
- 落葉広葉高木 高さ10～20m



### (特 徴)

早春の3～4月に葉に先立って白い花をいっぱい開く、モクレンに似ているが、花がやや小さくて清楚な感じを抱かせます。花弁は6枚で、ガクの下に必ず1枚の葉をつけるのが特徴です。枝はまばらで折ると芳香を放つ。秋には果実はコブ状の塊となり長さ7～10cm。中から赤い種子を垂れます。

### (扱い方の要点)

樹勢の強い木で、耐寒、耐暑性もあり、大抵のところでは植栽できる。しかしやせ地や乾燥の激しいところでは十分な生育が望めない。腐植質に富む肥沃で湿潤地がよい。日当たりのよいところは花づきがよい。移植は根が少なくあまり好まない。

### (管理と手入れ)

植え付けは4～6月、10～11月がよい。腐植質の土を十分入れて高植えにします。

とくに、整枝の必要はなく放任するが多い。狭い庭では小さく仕立てることもできる。整枝は花が終わった直後がよく、切り口は接ぎロウかセメダインを塗って腐敗菌を防ぐ。施肥はとくに必要ない。

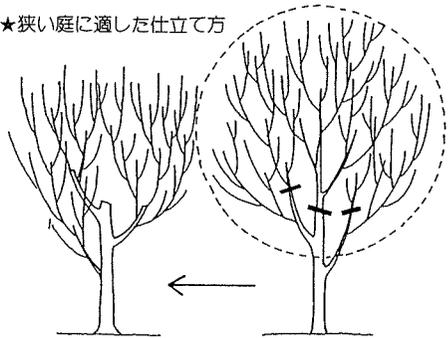
### (花つきをよくするコツ)

コブシは大きくなると隔年開花になりやすい。花芽の多くついた秋は花芽を半分くらいに減らしてやれば、その後は毎年花をつけるようになります。

### (病 虫 害)

うどんこ病が発生するので、6～7月頃カラセン水和剤を2～3回散布するとよい。害虫はカイガラムシとテツボウムシが発生するので、カイガラムシは6月

★狭い庭に適した仕立て方



下旬頃にデナボン水和剤50またはスミチオン乳剤を2回くらい散布します。テツポウムシはマラソン乳剤などの原液を穴に注入すればよい。

### (利 用)

樹形は特徴的で単植でも十分鑑賞できるし、芝庭に合い、庭木としても十分に使えます。鉢植盆栽にも利用できます。

### (その他の種類)

- シデコブシ (ヒメコブシ) 庭木に広く使われ、白花で花びらが12~18枚つく。花びらが少しよじれます。
- ベニコブシ シデコブシの花が淡紅色になったもの。
- タムシバ 山地に自生し、春、真っ先に白い花をつける。

## Q & A

Q、正月用のウメの盆栽を買ったのですが、管理はどうすればよいか。

A、ウメは寒い冬を越し、暖かく湿気の多い春に花を咲かせる習性があり、ウメを早咲きさせるときは、人工加速経過をさせて錯覚させた処理をします。

そのとき、温室などへ入れ加温し、ひんぱんに霧水をやって育ててやります。一般家庭では、冬の室温が乾燥しているので、花に頭からかけると花が傷みますので、花に水をかけないように霧水を与え、夜は濡れた新聞紙で鉢の上から覆ってやってください。

## サクラ類

- バラ科
- 花木、落葉性高木、低木、北半球の暖帯、温帯に広く分布している。
- 花の美しいものは、日本、朝鮮、台湾、中国、ヒマラヤ地方に多い。



### (扱い方の要点)

品種は非常に多く、大木になるものから小さいものまであるので、植える場所によって品種を選ぶことが大切です。

理想的な場所は、日当たりで水はけがよい腐植質に富んだ肥沃で耕土の深い場所がよい。

植え付けは10月下旬～11月、3月～4月がよい。本県では春先がよい。有機質を十分入れ高植えとします。

## ■ ヤマザクラ

最も種類が豊富で、古くから日本人に親しまれていて、丘陵地の尾根筋など陽光の当たる場所に自生する。4月上旬に、黄緑色、赤茶色の若芽とともに、淡白色の五弁花をつける。

## ■ エドヒガン群

本州、四国、九州に分布し、葉の出る前に淡紅白色の花を開く。ガク筒の下部がふくらみ、花柱、花柄ともに毛があり、小枝は細く、葉は長だ円形の毛があります。これを母樹に小彼岸、十月桜、八重紅枝垂などがあります。

## ■ カンヒザクラ群

寒桜、緋寒桜など紅色鐘状の花をつける、沖縄、台湾などに自生します。

## ■ ミヤマザクラ群

緑の葉のなかに純白色の花を繖状につけます。ガクの裂片が開花時に反曲する。我が国全土の深山に分布します。一般にあまり栽培されていない。

- ・ソメイヨシノは、オオシマザクラとエドヒガンからできたもので、葉に先立って花が開き、淡桃色五弁花で、我が国で最も多く使われています（富山市松川沿い）。

## (管理と手入)

「サクラ切るバカ、ウメ切らぬバカ」といわれるように、サクラは切口がふさがりにくいのでクレオソート、接ぎロウを塗る。

整枝時期は12月から翌年2月までに行う。樹形は自然形がよい。

施肥はとくに必要ないが、弱ったり、やせ地では寒肥として有機質肥料を入れてやるのもよい。

## (花つきをよくするコツ)

日陰や湿地を避けることが最も大切です。枝を切ると樹勢が弱くなり花つきが悪くなることがある。

## (病 害)

- 紋羽病 雑木や荒地あとに植栽すると発生しやすい。病苗は抜取る。ピロールピクソンで土壤消毒してから植える。
- こうやく病 幹や枝に灰白色の斑紋状のこうやくが発生する。ナイフで患部を削り取り石灰硫黄合剤を塗布します。
- てんぐす病 細枝が密生して発生し、ホウキ状となり花が咲かなくなる。病枝は切り取り焼却します。

## (害 虫)

アメリカシロヒトリ 5月下旬～7月上旬、8月中旬～9月中旬の2回発生します。幼虫が葉裏にかたまっている間に切り取って焼くかデープレックス乳剤で駆除します。

アブラムシ エストック乳剤で駆除します。

カイガラムシ 冬期間に機械油乳剤または石灰硫黄合剤を散布する。6月下旬～7月上旬頃にスミチオン乳剤を散布してもよい。

## (ふやし方)

ヤマザクラ、オオシマザクラは実生による。他の品種はほとんど接ぎ木でふやします。

フジザクラは挿し木でも活着する。

接ぎ木は、3月下旬ごろに切接ぎをし、8月～9月中旬は芽接ぎを行う。

## (移 植)

あまり移植を好まない。もし行う場合は、1年程前に根回しをして移植するようにします。

目通り10cm以上のものは移しても成果はあまりよくない。

惜しいようだが切り倒し、小苗を植えた方がよい。

## (利 用)

庭木には、あまり使われないが、もし入れる場合は中型以下の木を選ぶことが大切です。

街路、公園、堤防などの公共緑化に多く使われます。また一歳ザクラや、小

型のサクラは鉢植、盆栽にも仕立てられます。

### (その他の種類)

- オオヤマザクラ 本州中部以北、北海道、サハリン等に分布し、ヤマザクラより寒地で育ち、花は紅色。
- カスミザクラ 葉柄や葉裏に毛があり、裏面に白味がない。サクラで最も古い園芸種。
- オオシマザクラ 伊豆半島、大島などに分布し、花は白色で赤味がなく、ガクも緑色で鋸歯がある。樹勢が極めて旺盛。葉は桜餅を包む葉に利用される。  
この種を母樹に多くの園芸種がつくり出されています。  
イチョウ、フゲンゾウなど200種。

### (その他)

- 花色 サクラは紅色系(いわゆるサクラ色)が大部分であり、白色がそれに続く黄緑色=鬱金、御衣黄など。  
緋紅色=台湾緋桜、琉球緋桜、寒緋桜などがあります。
- 花弁数 サクラは普通は5枚であるが、半八重、八重等で、8~120枚くらいと多い。  
兼六園菊桜は一つの花で200枚以上の花弁がつきます。
- 花の香り ヤマザクラ系のもは、ほのかな花の匂いを持つ。駿河台匂、滝匂はよく匂う。  
葉も干すと香りがします。
- 桜湯に浮かべる花 フゲンゾウ、松月などの八重桜の花を使います。

## Q & A

Q、十年ほどたった庭のジンチョウゲの大株が枯れてしまったのはなぜですか。

A、ジンチョウゲは、大株のものが、ときどき枯れることがあります。これは土壤の白絹菌によるものだと思います。

この病気にかかると薬を使っても効果がありませんので抜き取ります。植える前に土壤消毒をして、排水をよくしてやることが大切です。根元をよく耕し、腐植質を十分入れて土を軟らかくしてやります。

また、ジンチョウゲは、大きいものの移植は、とてもむづかしい樹木です。

## サルスベリ

- 別名 ヒャクジツコウ
- ミツハギ科
- 中国南部原産で本州、四国、九州、沖縄に植栽されている。
- 落葉広葉高木 高さ 7～12m



### (特 徴)

つやのある木肌が美しい。7月～9月ころ淡紅色、白色などの花がつつぎに今年伸びた枝の先端に集めて大型の円錐花房をつける。葉は互生し、だ円形、長さ3～6cmで柄がない。

### (扱い方の要点)

暖地性の木だが耐寒性があり、本州全体が植栽可能です。やせ地や日陰以外ならよく生育します。適地は有機質に富む肥沃な湿潤地がよい。

### (管理と手入れ)

植え付けは、一般にサクラの咲く頃から5月中旬までがよい。高植えにします。大きくなると自然に樹形をつくるが、整枝する場合は冬期がよい。太枝を短く切りそこから新梢を出させると花つきが多くなります。施肥は寒肥として冬期間に堆肥、落葉、鶏糞などを根元にやればよい。

### (花つきをよくするコツ)

日当たりの悪いところや、やせ地でも花が咲かないことはないが、花房が小さくなります。整枝は12月から翌年3月までに小枝や3cmくらいの枝まで切りつめると花が大きくなります。

### (病 虫 害)

春から夏にかけてうどんこ病にはカラセン水和剤を10日おきに2～3回散布する。また6月下旬～7月上旬にデナボン水和剤を2～3回を散布すればすす病もあわせて防げます。アブラムシにはディプテックスを散布します。

### (利 用)

庭木、公園樹、街路樹、鉢植、盆栽などにも利用できます。

### (その他の種類)

- シロサルスベリ 白色の花をつけます。
- ムラサキサルスベリ 淡紫色の花をつけます。

## Q & A

Q、サルスベリの枝が伸びすぎて困っています。どう剪定したらよいでしょうか。

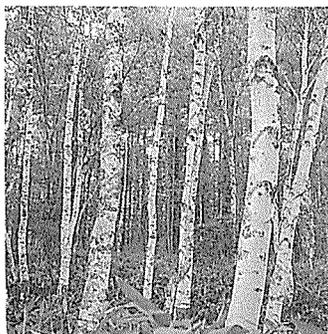
A、サルスベリは、本年伸びた新梢の先に開花する性質があります。弱い枝には花はつきません。放任しておくとう樹形が乱れ、枝数も多くなり花つきも悪くなります。

落葉後、その年に伸びた枝を全部元から切り落とし、翌年春先に強い枝を出させます。しかし、萌芽する芽が多すぎると全体に弱い枝になりますので、早めに芽かきをし、枝数を少なくします。

初夏まで1 mくらいの長い枝となりよい花が咲きます。

## シラカバ

- 別名 シラカンバ
- カバノキ科
- 北海道、本州の中部以北に分布する。
- 日本海側では富山は南限。
- 落葉広葉高木 高さ15～20m



### (特 徴)

樹皮は白く美しい。光沢がある明るい緑色葉。互生し、先が尖った広だ円形が多い。陽樹。土地を選ばないが、乾燥または向陽地によく生育する。生長が速いが大気汚染に弱い。剪定を好まない。

### (扱い方の要点)

寒さには強いが暑さに弱い。本県では海拔400m以上では育てやすいが平野部では生理障害がやすく育てにくい。

植え付けは、新芽のでないころか、秋は10月～11月がよい。用土としては腐植質に富む適潤な土が適しています。

### (管理と手入れ)

枝を切ることを嫌う。どうしても切る場合は、枝の途中で切らず枝の元から切り落とし、セメダイン又は接ぎロウを塗って腐敗菌の侵入を防ぐ。また夏期の根元の日射を防ぐため、敷きわらなどのマルチングをします。

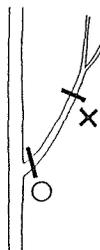
### (病 虫 害)

根元にテッポウムシが穴をあけるので根元にゴミなどを置かないようにする。もし穴をあけていたら針金で突き殺すか、スミチオン乳剤を入れて穴を土でふさぐとよい。

### (利 用)

単植でも群植でもそれぞれのよさがあり、幹の白さは庭の主木ともなる。自然樹形で育てるのがよい。芝庭にもよい。

枝の切り方



## トチノキ

- 別名 クリトチ
- トチノキ科
- 北海道、本州、四国、九州の山地に自生する。
- 落葉広葉高木 高さ35m
- 本県利賀村に国指定の天然記念物が2本あります。



### (特 徴)

山へ入って沢沿いに大きな木と大きな葉を茂らせているトチをみると、安らぎを感じます。

新芽は褐色で、ねばねばしたものに覆われている。葉は対生で大型の掌状複葉で5～6枚あります。若枝の先端に長さ20cmくらいの円錐状の白い5弁でやや紅味を帯びた大きな花をつけます。陰樹。生長速い。剪定はできるが、移植困難。

果実は丸く、10月に熟し、クリ大の実をつけます（食用）。

### (管理と手入)

土は、やや湿気のある深い土壌を好み、やせ地、乾燥地を嫌う。

陰樹で小さいうちは日陰でも育つが、花つきをよくするためには日当たりがよい。耐寒、耐雪性は大きい。初期生長はよくないが壮令期はよい。萌芽力は強い。

### (利 用)

一般家庭の庭は不向きですが、もし入れる場合は、刈り込みをして育てます。

公園、学校、並木、街路樹にもよい。

### (その他の種類)

- マロニエ（西洋トチノキ） ヨーロッパで庭園、公園、街路などによく植えられ、日本のトチより葉や花は大きい。幹は硬くて痛いトゲがあります。パリのマロニエの街路樹は有名です。

## ナツツバキ

- 別名 シャラノキ
- ツバキ科
- 本州の関東以南、四国、九州の山地に自生する。
- 落葉広葉高木 高さ10～15m。



### (特 徴)

6月～7月ころツバキとよく似た白い五弁の小さな花をつける。清楚で美しいが花期が短い。樹皮はつるつるした灰赤褐色で、全体として品がよい。裏面には綿毛が散生する。

### (扱い方の要点)

樹勢が強く、とくに注意することはないが、乾燥の激しいやせ地は好まない。腐植質に富んだ湿潤で空中温度の高いところがよい。群植や混植をし、根元に直射日光が当たらないようにしたい。

### (管理と手入れ)

植え付けは落葉期間中がよい。堆肥や腐葉土と十分すき込んで土壌湿度を高めてやる。仕立てる場合枝先をつめないで、付け根から切って自然樹形をくずさないようにします。

### (病 虫 害)

とくにない。

### (花つきをよくするコツ)

小さいときは花をつけないが、ある程度の大きさに達すれば花をつけるようになります。花は前年生枝の短枝の先端につくので、冬期間に枝先を切ると花芽を切ることになります。

また、隣接木の日陰になると花つきが悪くなるので日が当たるように隣接木の枝切りをしてやればよい。

### (利 用)

やさしい優雅な木であり、庭木として多く利用されています。また、落葉樹のなかではブナとともに盆栽にも適した木です。

また、茶花としても使われ、茶庭には最適です。

### (その他の種類)

- ・ヒメシャラ ナツツバキより花や葉が小さく、径2cmくらいの白い花をつけます。樹皮が黄褐色で光沢があり、秋の紅葉が美しい。

## ナナカマド

- バラ科
- 北海道から九州までに分布する。
- 落葉広葉高木 高さ9～10m



### (特 徴)

ナナカマドの緑は淡く軟らかい感じがあり、庭園樹としてよく利用されています。果実は球形、5月～7月に小さな五弁花をつけ、葉は互生し奇数状複葉で9～15枚あり長だ円形で、長さ3～7cm、縁に鋸歯があり、秋の紅葉は美しい。

### (扱い方の要点)

ナナカマドは高山性のものとされているが、平地でも大木をみかける。樹勢も強く生長も早い。土壌を選ばないが、腐植に富んだ湿潤地で日当たりを好む。耐寒、耐雪性にも優れている。

植え付けは、落葉期間中がよいが春先芽がでる直前が最もよい。堆肥などを入れ土壌湿度を高めて植えます。

### (管理と手入れ)

放任して自然の樹形で育てるのが最もよい。枝を切りつめず不用枝を付け根から抜くようにします。整枝は落葉期間中に行います。

### (実つきをよくするコツ)

やせ地や日陰でないかぎり一定の時期がくれば結実します。実生で育てると十年あまりかかります。

ナンキンナナカマドは3～4年で実をつけます。

### (病 虫 害)

平地では病虫害がよくつく木で、平地で育てにくいのもこのためです。

うどんこ病、黒斑点病は、カラセン水和剤などで防除します。

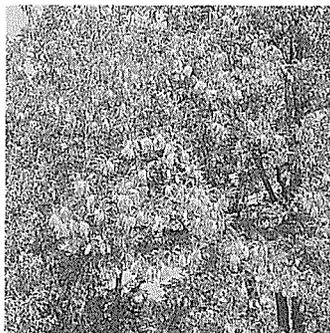
アブラムシ、ハマキムシ、ミノムシはスミチオン乳剤などを散布します。カミキリムシの幼虫は、スミチオン乳剤の原液を1～2滴注入して土でふさいで殺虫します。

### (利 用)

庭木にはナンキンナナカマドがよい。洋種ナナカマドは実つきがよく栽培しやすい。芝庭、洋風の建物によく調和します。最近街路樹としてよく使われています。実がよくつくので小鳥の給餌木になります。

## ニセアカシヤ

- 別名 ハリエンジュ、アカシヤ
- マメ科
- 北アメリカ原産で、北海道から沖縄まで広く植栽されている。
- 落葉広葉高木 高さ15m



### (特 徴)

生長が早く、やせ地でもよく育ち砂防用、肥料木として植栽されている。日当たりのよいところを好みます。萌芽力も強く剪定も可能です。枝にはトゲがあります。

主幹が通直で狭長な樹形になりやすい。羽状複葉の小葉は小さく開いて軽くて薄く、さわやかな感じを受ける。花は白い房状の花が下垂する。香気があり、蜜源植物としても重要です。

### (病 虫 害)

比較的病虫害が多い。若いときはあまりなくテッポウムシの幼虫くらいであるが、成木になると枝枯れや根に腐食菌がつき倒伏したりします。新しい枝をださせたり、土壤消毒したらよいでしょう。アブラムシも7月ころ発生するのでマラソン乳剤を2～3回散布します。

### (利 用)

新葉のさわやかさや香りのよい花がついてよいのですが、木のもろさ、トゲがあり管理が容易でない。しかし街路樹として多く利用されている。早期に緑化しようとする場合によい樹です。

### (その他の種類)

- トゲナシニセアカシヤ ニセアカシヤをやや小型にした形の樹木でトゲがごく小さい。潮風に強く、傷ついても回復が速く、海岸の風致木として使われている。街路樹としてもよい。
- バラソルニセアカシヤ 樹高が3～5mで、自然に円形の形をつくり、小枝が多く葉が密生する。トゲがなく、花が咲かない。

## ハナミズキ

- 別名 アメリカヤマボウシ
- ミズキ科
- 北アメリカ原産で、尾崎元東京市長が明治45年サクラを寄贈した返礼として、大正4年渡来した。
- 落葉広葉高木 高さ5～10m



### (特 徴)

4～5月頃、小枝の先に白または赤色の花弁状をした4枚の大きな総苞をつけ中心部に黄緑色の小花が集まって咲きます。

果実は秋に深紅色に熟し、葉の紅葉とともに美しい。

葉は対生し、だ円形で鋸歯がなく裏面は白色をしています。直幹・横張型で日本人好みの樹姿である。最近人気の高い樹木です。

### (扱い方の要点)

耐寒性があり、半日陰でも生育しますが、土質は腐植質に富んだ肥沃な湿潤地によく育ちます。生育やや遅く、移植は困難です。

### (管理の手入)

植え付けは、落葉期間中がよい。新芽がでてからの植え付けはやめたい。整枝はとくに行わなくてもよい。こみすぎた枝を抜く程度でよい。樹木自体が自然に樹姿を整えます。

施肥は、寒肥として根元へ化成肥料を3握りくらい施す。

### (病 虫 害)

うどんこ病が発生するので、発生したらカラセン水和剤か水和硫黄剤を10日おきに2～3回散布します。

### (花つきをよくするコツ)

やせ地、日陰地は花つきが悪い。一般によく花をつけるが樹勢が弱ると隔年結果をおこしやすい。

実生で開花まで5～7年かかります。

### (利 用)

庭木のほか、公園、学校、街路樹などに広く利用されています。秋の紅葉も美しい、鉢植えは花つきが悪いので不向きです。

### (その他の種類)

- ベニバナハナミズキ (チェロッキーチーフ) 紅色の花をつけます。
- シダレハナミズキ 枝が垂れ、花は白色。

## ハルニレ

- 別名 コブニレ
- ニレ科
- 北海道、本州、四国、九州に分布する。
- 落葉広葉高木 高さ20～30m
- 北海道大学の構内のエルムの木は、この木です。

富山でも細入村楡原の神社に大木が数本あります。



### (特 徴)

葉は互生し、長さ3～12cmの倒卵形またはだ円形で先が尖っている。表面は暗緑色でざらつく。縁に重鋸歯があります。

寒さには強く、強健な木です。若いときは樹形は乱れやすいが老木になると堂々とした風格がでる木ですから広いところで育てるとよい。

幹や枝にニシキギのような翼ができます。陽樹。移植やや困難。

### (管理と手入れ)

普通の土壌でよく育ちます。樹勢も強く、萌芽力もあり、せん定にも耐えますが、自然形に育てるのがよい。

植え付けは、春3月～4月上旬ころがよい。繁殖は実生です。

### (病 虫 害)

とくにない。

### (利 用)

ケヤキと同様、街路樹、公園、並木などと緑陰樹として適した樹木であり、北陸地方ではあまり使われていないがもっと使ってもよい木であろう。

## フウ

- 別名 タイワンフウ
- マンサク科
- 中国中南部、台湾原産で、本州（中部以南）四国、九州などに多く植えられている。
- 落葉広葉高木 高さ20～25m



### （特 徴）

円錐形に伸びる樹形が美しく、端正で品のよい大木となります。木肌もよく、平滑で灰褐色で老木では黒褐色になり紅葉が美しい。特別な乾燥地以外はよく育つ。

生長が速く、萌芽力も強い。土壌は肥沃のところを好み、潮風に弱い。移植は成木になるとややむずかしい。

### （管理と手入れ）

この木は広いスペースで自然形で育てると美しい。しかし、狭いところでもせん定が容易なので利用することが可能です。せん定は弱目の方がよい。

### （病 虫 害）

とくにない。

### （利 用）

寒さに弱い木であり、平野部で育つが山間部では生長が劣ります。公園、街路、景観樹、植木などに使われています。

弱いせん定で整った姿に仕立てられます。

公園や広場に単植や、芝生にもよく合う。

### （その他の種類）

- モミジバフウ 葉がモミジに似て5裂し、樹形はタイワンフウによく似ます。大木になり、長だ円形の直立した端正な形をとります。晩秋は橙→赤→赤紫色と色変わります。若い枝はコルク質の稜ができます。日当たりのよい肥沃で適湿な土壌を好み、乾燥に弱い。

### （病 虫 害）

とくにない。

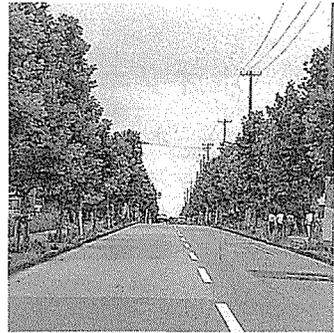
### （利 用）

広い芝生広場で単植するとすばらしい。また群植でもよい。遠くから眺められるようなところがよい。せん定によって樹形をコントロールできるので狭いところでも使用できる。街路樹としてよい木です。

## プラタナス

### ●落葉広葉高木

スズカケノキ、モミジバスズカケノキ、アメリカスズカケノキの3種類があり、何れも日本に植えられ大木になっていません。



### ■プラタナス

#### ●別名 スズカケノキ

●西方アジア、南欧原産。広く我が国に植栽されている。

#### ●落葉広葉高木 高さ20～50m

#### (特 徴)

樹皮は大きくはがれる。白と緑のマダラ模様となる。葉は有柄掌状で5～7深裂する。

#### (管理と手入れ)

陽樹で生長が早い。萌芽力が大きく刈り込みができます。

植栽は容易です。煙害に強いが、潮風で葉先が赤褐色になる。また、アメリカシロヒトリが発生すればスミチオン乳剤を散布し、カミキリムシの幼虫はスミチオン乳剤の原液を患部に塗布する。

#### (利 用)

公園や街路によい。我が国の街路で最も多く使われています。

#### (その他の種類)

### ■モミジバスズカケノキ

アメリカスズカケノキとスズカケノキの雑種で樹勢が強く、土壌はとくに選ばないが極端な乾燥地や湿気は避けた方がよい。日当たりを好み、大気汚染に強い。せん定にも耐えます。

### ■アメリカスズカケノキ

樹皮は、下部でも皮がはげない青白色。大木はユリノキ状の肌になる。大気汚染にあまり強くないので都市の街路樹に向かない。

葉裏に細毛が多く、幼葉から成葉になるにつれて落毛し、風などで飛散した毛を吸い込んでアレルギーを起こすことがある。アメリカスズカケノキにとくにこの害が多い。

## ホオノキ

- 別名 ホオ、ホウバノキ
- モクレン科
- 北海道から九州まで分布している。
- 落葉広葉高木 高さ20m



### (特 徴)

枝は太くてあらい、枝先につく新芽は太い。花はタイザンボクに匹敵する大きさで芳香があり、上向きに咲きます。果実はパイナップル状で熟すと赤い実が飛びだす。葉が大きく長さ30cmを越す。大きな葉と白い葉裏が特徴的です。

### (管理と手入)

山地に自生している場合は樹冠幅が狭いが、孤立木にすると円形に近い形となり、枝は太く、萌芽力もあるがこの木の幹や太い枝を切ると、樹形がアンバランスになるので自然に育てたい。土質は肥沃な適湿地がよい。

### (病 虫 害)

すす病にかかり易いので、その原因であるカイガラムシを駆除すれば回復する。冬期なら石灰硫黄合剤又は機械油乳剤を2～3回散布します。夏の、ふ化期の6月下旬～7月上旬にスミチオン乳剤を散布します。

### (利 用)

この木のように大きな葉で大きな樹木は少ないので独特の雰囲気があるが、デザインの使い難い木である。逆に上手に使えばおもしろい。

公園や緑陰樹に使用されます。

## ポプラ

- ヤナギ科
- 原産地は不明。北半球に30種以上が分布して、日本全土に多く植えられている。
- 落葉広葉高木 高さ40m



### ■ ロンバルディポプラ（イタリアヤマナラシ）

一般にポプラといわれているのはこの木です。

#### （特 徴）

細い円柱状に空高く伸びる樹形と明るい葉色で人気がある。新緑と秋の黄葉が美しい。短命。風害に弱い。雌雄異株。

#### （管理と手入れ）

適地は肥沃で適潤な土地を好み、乾燥地や湿地では衰弱する。風に対しては弱そうであるが、土壌のよいところでは倒伏しにくい。しかし、枝は老令に達すると折れやすく、「ドカ雪」で大被害を受けることがあります。

#### （病 虫 害）

病虫害の多い木であり、根元へのテッポウムシの幼虫に注意し、発生したら針金で殺すか、スミチオン乳剤原液を注入し土でふさぎます。

褐斑病、葉さび病には、ダイセンステンレス500倍液を発生期から2週間おきに散布します。うどんこ病はカラセン水和剤、すす病は原因のカイガラムシを防除します。

#### （利 用）

細く長い高木として単木でも使えるし、列植、並木植、小群落植してもよい。

平地における水平的なへだたりをもって植えるとよい。根元には、低いものによるカバーリングをすれば美しい。公園、街路樹、水辺植栽などによい。

#### （その他の種類）

### ■ アメリカヤマナラシ

イタリアヤマナラシの原種で性質もよく似ている。高さが25～30mに達し、直径は1mに達する。横への広がり是他より大きい。樹形が乱れる。北海道大学のポプラ並木は、この木です。

## ■ カロリナポプラ

アメリカヤマナラシとヒロバハコヤナギの自然交雑種で、枝は横に張り中広の樹形になります。生長が早いので急速な緑化をする場合はよく使われる。西日本に多く使われています。

## ■ ギンドロ（ウラジロハコヤナギ）

若葉、芽の白い綿毛、葉裏が風によってひるがえると美しい。葉は普通のポプラより切りこみがあります。病気は暖地では発生しやすく育ちにくい。幹は直立せず屈曲しやすい。

### Q & A

Q、西洋アジサイ（ハイドランジャー）の花色をきれいにするためにどうしたらよいか。

A、アジサイは花色が変わりやすい。さえたきれいな色を出すためには、青色種は一株当たり、ピートモス、バケツに3杯、硫酸アルミニウムかミョウバン100gを土とまぜて植え込むとよい。

桃色や紅桃色を植える場合は、苦土石灰6ℓと土をよくまぜて植えるときれいな花になります。

### 豆知識

○ サツキとツツジの違いは何か。

サツキとツツジは、同じツツジ科のツツジ属で全く同じ仲間です。

外見上の違いは、開花の時期と新芽の伸びる時期が異なることから別れてきた。

サツキは、新芽が伸びきってから開花するのに対し、ツツジは開花後に新芽が伸びるか、伸び続けます。枝ぶりが、サツキが横開性に対してツツジは随立性であり、葉の表面がツツジが毛がないのに、サツキは毛が深い。

## モクレン

- 別名 シモクレン
- モクレン科
- 中国原産で古くから北海道から沖縄まで  
植栽される。
- 庭に植えられる代表的な花木です。
- 落葉広葉中高木 高さ4～5m



### (特 徴)

4～5月ころ葉に先立って、暗紅紫色の筒形の半開きした長さ8～10cmの花が枝先に上を向いて咲きます。花弁は6枚。葉は互生し広倒卵形長さ8～20cmで葉先の尖りは短い。少し芳香があります。陽樹。

### (扱い方の要点)

丈夫で大抵のところで育ちます。土質はあまり選ばない。半日陰でも育つが、日当たりのよい腐植質に富んだ肥沃地がよい。根に細根が少ない。

### (管理と手入れ)

広い庭なら放任しても自然樹形でよいが、狭い庭なら高木になるハクモクレン、サラサモクレンは3～4年に一度花の終わった直後に太い枝を切りつめて樹形をつくり直すようにします。

萌芽力が強いので夏から秋にかけて新梢を多く発生するので、冬期間に枝を整理する程度とします。移植はやや困難な樹で、もし行う場合は前年に幹巻きをするようにします。

乾燥をきらうので夏期は敷ワラ、灌水を十分に行います。

### (花つきをよくするコツ)

やせ地や日陰地では枝があらく細く、花つきが悪くなるので適地に植え直してやればよい。

花芽の形成は、5～6月に行われるのでそれ以降の剪定を行わないようにします。

### (利 用)

公園樹、庭園樹、寺院に利用されている。鉢植、切り花にも多く使われる。春の庭木として一本は欲しい木です。

## モッコク

- ツバキ科
- 本州関東以南、四国、九州、沖縄、中国、東南アジアに分布する。
- 庭木の王といわれ、とくに気品があります。
- 常緑広葉高木 高さ 8～12m



### (特 徴)

葉は長大円形で互生し、縁に鋸歯がなく、葉は厚い。葉柄は帯紅色をしている。7月に淡黄白色の小さい五弁花が長い柄の先に下向きに咲きます。果実は球形で11月ごろ赤く熟し赤い種子がつきます。陰樹で生長はやや遅い。移植やや困難。大気汚染に強い。

### (扱い方の要点)

庭木としては、モチノキと同じ扱いがよく、モチノキよりやや寒さに弱く植栽は富山県の平野部は北限です。

植え付けは5～10月で、真夏は避けたい。土質は粘質で肥沃な湿潤地へ植えると枝も密にしまった樹形になります。

### (管理と手入れ)

樹形は半ば放任してもよく整えるが、小枝が密生するので枝抜きを年1～2回行いたい。

整枝の時期は、6～7月と11月の2回行います。

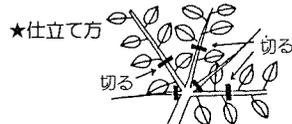
### (病 虫 害)

モチノキと同様ですが、ハマキムシが多く発生するので、注意します。

### (利 用)

この木は樹令を経るに従って風格がでくる木で、昔からモチノキと並んで庭木の王とされる。他の木との混植を避けたほうがよい。洋風の庭にもよく調和します。

枝が横へ張るので狭い庭に向かない。枝幅を狭く仕立てることはむづかしい。また萌芽力があまりよくないので生垣には向かない。



★仕立て方  
モッコクの枝は数本輪生しているように見える。細枝は元から切り、2～3本残した枝は葉を2～3枚残して切る。

枝を切ると葉腋から芽を吹き、短かくて止まる。11～12月にまた同じことをくり返す。

## ヤナギ類

- ヤナギ科
- 北半球の温帯、亜寒帯に分布し、日本には約100種の品種、変種がある。



### ■ シダレヤナギ

- 中国中南部に分布し、我が国全土に植栽されている。
- 落葉広葉高木 高さ10～15m。

#### (特 徴)

中国から古い時代に渡来し、現在北海道から沖縄まで造園木として、湖畔、水辺の風致樹、並木、街路樹として広く植栽されています。雌雄異株、日本には雌木はない。

葉は、披針形で長さ7～12cm、幅4～10mm、鋸歯があり葉裏は白っぽい。

小枝は柔軟で下垂する。樹形は鐘形。

#### (扱い方の要点)

ヤナギは水湿地に適し、陽樹で生育が早い。大気汚染に弱く、夏落葉する。植え付けは11月から翌年4月までがよい。湿地にも強いが、適地はやや粘質で肥沃な湿潤地。日当たりのよい場所を好みます。移植はやや困難。萌芽力があり強剪定にも耐える。

#### (病 虫 害)

うどんこ病が発生するので、カラセン水和剤を1週間おきに2～3回散布します。

5～8月に発生するハムシは葉を食害するのでディプテックス乳剤で駆除します。そのほか、カミキリムシやアメリカシロヒトリの幼虫が発生するので、スミチオン乳剤またはディプテックス乳剤を散布します。

#### (育て方のポイント)

4～5年自由に伸ばしてから幹を太らせてから枝を切りつめればよい。枝下2cmくらいにして枝を出させて長く垂らすと美しい姿になる。枝は途中で切らず根元から切ります。

#### (利 用)

公園、街路樹、並木などに多く利用され、盆栽にも仕立てられる。庭にも剪定して入れることも可能です。

## (その他の種類)

### ■ コリヤナギ

朝鮮原産で枝は柳行李をつくる材料であることから名づけられた。

水辺に栽培されている落葉低木。枝は直立して伸び、葉は対生または三輪生し、広線形で縁に鋸歯がない。

### ■ ウンリュウヤナギ

中国からシベリアに分布するペンギンヤナギの園芸種で、枝は上向きし、枝や葉が屈曲し、ねじれる。葉は線状で、披針形で下面が白みを帯びます。

#### (取り扱いの要点)

日当たりのよい水湿地を好むが、乾燥地でも良く育ちます。

#### (病虫害)

シダレヤナギに準じる。

#### (利用)

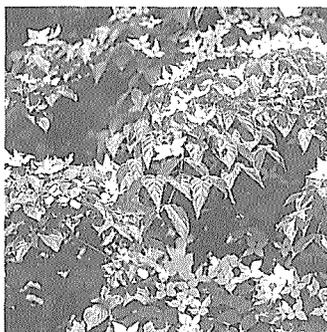
シダレヤナギに準じる。

### ■ ネコヤナギ

日本各地の川沿いに生え、アジア東北部に分布している落葉低木。葉は互生して、披針形、縁には鋸歯がある。裏面は灰白色で毛が残る。花は3～4月葉の出る前に咲き、花穂に白い絹毛が密生する。和名は花穂を猫の尾になぞえたもの。

## ヤマボウシ

- 別名 ヤマゲフ
- ミズキ科
- 日本、朝鮮、中国に分布している。我が国全土に植栽されている。
- 落葉広葉小高木 高さ5～10m



### (特 徴)

本県の低山地帯の谷間にも自生している。水平に伸びた枝に春先上向きに白い花をたくさんつけます。花に見えるのは苞で4枚つけます。

葉は卵形で対生し、先端に向かってわん曲した葉脈が目立つ。葉縁は前縁で波を打っている。秋に紅葉します。果実も秋頃いちご状の実が赤熟し食用になります。

### (管理と手入れ)

土地を選ばないが、日当たりの良い適潤な肥沃土がよい。剪定はできるが弱く行う。

### (病 虫 害)

とくにない。ケムシ類には葉の食害がありますが発生したら、ディプテックス乳剤を散布します。

### (利 用)

剪定による整形がむつかしいのであまり狭いところで植栽は困難であり、公園、添景樹、庭木などに多く使われています。古くから茶花として利用されています。

## ユリノキ

- 別名 ハンテンボク、チューリップツリー
- モクレン科
- 北アメリカ東部原産で、北海道南部、本州、四国、九州などに植栽されている。
- 落葉広葉高木 高さ20~30m



### (特 徴)

幹は直立して大木になります。樹形が長方形で美しい。葉は長い葉柄があって互生し、大型で花が5~6月頃咲く。生長が早く適湿性を好むがやや耐乾性もあります。葉の形がはんてんに似ている。花はチューリップ形。陽樹。移植困難。

### (扱い方の要点)

植え付けは10月中旬、5月上旬がよい。根が太くあらい。粘質で肥沃な地を好み、日当たりのよい場所が理想的です。剪定も可能で3月中がよい。放任すると大木になるので広い場所でなければ植栽がむづかしい。

### (病 虫 害)

とくにはないが、テッポウムシ(カミキリムシの幼虫)の被害を受けることがあるので捕殺するか、6~8月にスミチオン乳剤を散布します。

### (育て方のポイント)

自然樹形で育てるのが最もよい。庭木として取入れる場合はあまり小さいうちから切り込まないで、樹高が4~5mくらいになったときに整枝し、太い枝を1mくらいの間隔に配置し小さい枝を切る。目的の高さまで育ったところで梢を切って芯をとめるとよい。

### (利 用)

庭木よりも公園など広い場所によく似合う。街路樹にもよい。他にない明るい感じの木で緑陰樹にもなり、葉の形もおもしろい。花もかわいいので、洋風の建物にもよく調和します。緑陰樹。記念樹、景観樹にもなります。



葉が大きいので枝はできるだけ抜き、少なめにしてあまり伸ばさないようにする。

枝は放任するとよく伸び肥大が早いので、細かい枝は2年くらいで枯れ、整理される。

## イチョウ

- イチョウ科
- 中国原産で、古くから日本各地に植えられている。
- 落葉針葉高木 高さ30m



### (特 徴)

葉は扇形で先端に割れ目があり、柄が長い、枝は短枝から群がってつく。長い枝もあるがこの場合は互生している。雌雄異株。

生育が速く、寒さに強く、火にも強い。せん定にも強く、大気汚染にも強い。種子はギンナンとなり、それを包む果肉は悪臭を放つ。

### (扱い方の要点)

移植は容易であるが、高木になるので庭木には向かない。植え付けは日当たりのよいところがよく、土質を選ばない。

イチョウは自然の姿が最も美しい。しかし街路に植える場合等は、刈り込まなければならぬが、細かい枝が出やすいのでこまめに取ります。

施肥は、必要ありませんが、黄を美しくする場合は、リン酸、カリ肥料をやればよい。

### (病 虫 害)

ほとんど発生しない。

### (育て方のポイント)

ふやし方は、実生、挿し木、接ぎ木で行う。

緑化用は挿し木(60cmくらいのもの深ざし)、実生など。鑑賞用の斑入、鉢物は接ぎ木による。

移植は、3～4月か落葉後の11月、この時期は5mくらいのものまで根鉢づくりをしなくてもよい。

庭へ入れる場合は、2～2.5mくらいのがよい。下枝を十分残し、小枝を出させる。大きくなると上長生長がよく、下枝が伸びにくく、仕立てるのはむづかしい。

### (利 用)

公園樹、街路樹、神社、寺院など広い場所によく使われます。

実はギンナンとして食用になり、材は、マナ板、和服の仕立台、将棋盤などに利用できる。

氷見市上日寺のイチョウ(天然記念物。)は有名である。

## メタセコイヤ

- 別名 アケボノスギ
- スギ科
- 中国四川省原産で昭和30年ごろ日本に入り広く植栽されている。
- 落葉針葉高木 高さ推定40m以上



### (特 徴)

円錐形の整った形で、生育が極めて速い。葉はさわやかな若草色の新緑、秋の紅葉は赤褐色、黄色で美しい。葉は扁平な針状葉で対生につく。陽樹。

### (取扱いの要点)

生長が早く枝が太くなりやすい。水湿地でよく育つ。乾燥地ややせ地では育ちが悪い。潮風に弱い性質があります。風で折れやすいので強風の当たる場所は避けます。

幹が直立して枝もまばらで明るく、他の針葉樹にみられない特徴があります。

### (病 虫 害)

とくにない。

### (利 用)

樹の特徴を生かして、平地に群植、近代的なビルディングなどの並木植え、水辺の植栽によい。

狭い庭でも円筒形に刈込みを行えば使えるが一般的ではない。

施設などで自然形で仕立てる場合は建物から5 m以上離すようにしましょう。

公園、学校、街路樹、記念樹などに多く利用される。